



公立・公的病院病床再編統合許さない



公開学習会に67人参加

2月3日、国の責任で医療と介護の充実を求める北海道集会実行委員会主催の公開学習会として、厚労省による公立・公的病院再編・統合問題の学習会が行われました。全道様々な地域から67人の参加でした。医労連から21人が参加しました。

実行委員会としての開会のあいさつで鈴木執行委員長は「今回の424病院名指しの問題で、当該病院の院長や自治体首長などが“納得できない”という怒りや“地域で一生懸命役割を果たしてきた。これからも病院の存続、維持をしていく”という決意も、アンケートで回答されている。黙っていればライフラインがたずたになるかも、というとき。学習して今後の運動に生かそう」と話しました。



学習講演は「公立・公的424病院への『再検証』要請を撤回させ、地域医療の拡充を求める運動を進めよう！」のテーマで医労連の鎌倉幸孝副委員長が行いました。講演では、今回の病院名指しによる移転統合計画は、医療提供体制の集約化とともに、医師配置の集約化を進めて医師数を抑制する狙いがあること、地方の町壊しにつながり、医療機関同士、補完、連携してきた地域医療の需給バランスを崩壊の危機にさらすなど重大な影響を及ぼすことが説明されました。田村執行委員からは日高、浦河町などの議会請願の報告を行いました。



室蘭の参加者からは、「市内民間病院と市立病院の3つを1つにする構想があるが、どう守っていくべきか」との質問があり、講師の鎌倉副委員長は「議論内容、データを公表させることが必要。全国で、病院の合併で医療体制がよくなったところはないし、医師も増えていない。地

域経済にとっても医療は効果のある分野であることも示していくことが必要」と答えました。実行委員長である道民医連太田事務局長は、「全道で地域医療まもれの声を上げていこう」と、署名や自治体意見書採択の運動を呼びかけました。

自治体請願行動始まる「病院再編統合問題」「産別別最賃新設」

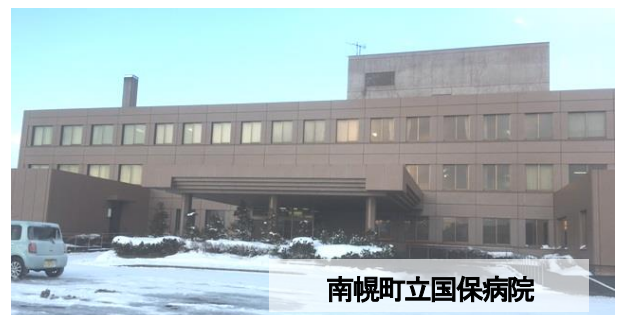
道医労連では、3月議会に向けて、病院再編・統合問題と産別最賃の自治体請願の取り組み、名指しされた病院との懇談が始まっています。

後志管内6自治体訪問 伊藤賢太執行委員の報告

- 岩内町議会：＜事務局長・副事務局長＞5億円かけて原発事故時に対応できる陽圧機の導入など、リニューアルしたばかり。今回の問題には怒りを持っている。ぜひ、議会で取り扱いたい。（名指しされた病院は岩内町協会病院）
- 神恵内村議会：＜事務局長＞積丹や泊からも利用者が来ている。介護は人が集まらない。（産別最賃を）ぜひ、取り扱えるよう議会へ図りたい。病院統合については後志町村会で国に要請を行った。
- 泊村議会：＜事務局長＞国は一方的に議論しており、地域の実情を反映していない。総理官邸は泊に住んでみろと言ってやりたいくらいだ。議会で取り扱ってもらえるよう意見しておく。
- 倶知安町議会：＜議長・副議長＞病院統合問題の国への意見書は12月に全会一致で採択した。後志では小樽と倶知安しか産科の施設がない。地域住民の生活を守る立場から今回発表された中身は到底受け入れがたい。
- 蘭越町議会：＜町長・事務局長他2人＞町の診療所をリニューアルするが保健師の確保に大変苦慮した。介護の従事者には町から10～20万円の一時金支給としたが、人はなかなか位置づかない。
- ニセコ町議会：＜町長・副町長・議長＞産別最賃については、なぜ看護師と介護士か？創設されても、他の業種との格差は埋まらないのでは？病院統合問題については、ただ反対だけではなく、どこまで引き受けるか、どうしたら課題を越えられるか？という視点も必要だ。

南幌町立国保病院訪問 勤医労室岡昇さんの報告

●南幌町立国保病院：＜事務長＞「多くの公立病院は高度急性期を取れず、かといって療養病棟ではない。実際には回りハのような機能で、イレウスなど急病も受けて一次救急の役割も果たしている。直接、住民の医療を支えるのは自治体の責任。町立病院は採算に関係なく残していかなければならないと考えている」と賛同署名は受け取ってくれました。



2/17 興部町国保病院に古川執行委員、2/18 中頓別町国保病院に宮越書記次長が訪問を予定しています。公立・公的病院統合反対の意見書は全道26自治体議会で採択、産別最賃意見書は看護15、介護16自治体議会で採択されています！